



広島研修



未来へ繋がる道となる

弥富北中学校 長田 晶奈

【思いを伝え・繋ぐこと】

1945年8月6日午前8時15分、広島の上空から見たこともないくらい大きな雲が出現し、黒い雨が降ってきました。一瞬であたりは炎に包まれ、14万人近くの命が失われました。被爆した人たちの中には、子どもからお年寄りまでたくさんの人がいました。原爆投下の数カ月後に、病気が見つかった人もいました。

大切な人や思い出の場所など、たくさんのものを奪ったこの原子爆弾は76年の時を越えて、今でも私たちに大きな傷跡を残しています。多くの人に影響を与えたこの日の恐ろしさを、広島県にある「原爆ドーム」から実感することができました。

【平和を願うわたし】

私には家族や友達もいて、毎日平和に過ごすことができます。しかし、平和についての勉強を進めていく中で、「今ある平和」というものが当たり前ではないことに気がきました。

原爆による放射線被害で白血病になってしまった佐々木偵子さんは、病気の克服を目指して千羽鶴を折り続けたそうです。現在、平和記念公園には、日本各地から贈られた折り鶴がたくさんあります。また、平和記念公園には、「平和の鐘」があり、国境のない世界地図が描かれています。世界中の人々が平和を願う「思い」が形となって表現されています。

直接何か行動できなかったとしても、平和について学び続けることや、平和な暮らしに感謝することが大切であると学ぶことができました。

【私たちと平和】

この広島研修を通して、「今ある平和な生活に感謝すること」がどれだけ大切なことなのかについて、改めて考えるきっかけになりました。被爆ピアノ公演、平和に関する授業など、どれも私に「平和とは何か」を考えるきっかけを与えてくれました。

コロナ禍により、広島の地を訪れることはできませんでしたが、リモート講演や被爆ピアノ演奏を聞くことにより、平和について学ぶべき大切なことを勉強することができました。今ある自分の大切な人やものに感謝し、日頃の生活の中で、その感謝を伝えていくことが大切だと感じました。

戦争はとても恐ろしいものです。もう二度と戦争を引き起こさないためにも、この研修を通して学んだことを忘れず、自分にできることを考えて行動していきたいと思います。



平和を願う

弥富北中学校 伊藤 大翔

【奇跡の音】

原爆が投下された広島で、奇跡的に残ったピアノを修復したもの。それが「被爆ピアノ」です。僕はこの被爆ピアノの音色を聴いたとき、やさしく癒される気持ちになりました。被爆ピアノを聴いて改めて「戦争のない時代に生きる僕たちはとても幸せだ」と感じました。それと同時に、これからもずっと、平和な世界であってほしいという願いが、よりいっそう強まりました。

戦火を乗り越えたこの「被爆ピアノ」のように、僕たちも強く生きなければならないと思います。広島に行くことはできませんでしたが、学校で実際に「被爆ピアノ」の演奏を聴くことができてよかったです。

【僕たちにできること ～被爆体験伝承者講話を通して～】

リモートでの被爆体験者の伝承講話を通し、二度と戦争を繰り返してはならないと思いました。初めて知ることが多く、こんなことが本当にこの日本で起こったなんて信じることができませんでした。

原爆によって亡くなった人は約14万人。原爆からの放射線の影響で病気になったり、心に傷を負ったりした人はさらにたくさんいます。今回の講話を通して、原爆のもたらした影響や体験された方々の苦しみを知り、命の尊さを改めて実感しました。平和な社会の実現のために、原爆の恐ろしさを忘れないようにしたいと思います。

【広島研修で学んだこと】

広島研修を通して、様々な人の平和に対する願いや戦争の悲惨さについて知ることができました。戦争を知らない僕たちも、戦争の悲劇を忘れてはいけないし、二度と繰り返さないためにも戦争がもたらした悲惨さを語り継いでいくことが必要であると思いました。

今、この平和な社会があるのも、「二度とこの悲惨な出来事を繰り返してはいけない」という、多くの人々の思いの積み重ねの上に成り立っているものだと感じました。僕たちもこうした「平和への願いや思い」を受け継ぎ、平和な世界を守り抜いていかなければならないという思いを強くしました。

今回、このような貴重な体験ができて本当によかったと思います。今後もこの体験を生かし、生活をしていきたいです。



平和な世界について知る

弥富北中学校 駒田 妃那乃

【見て、聞いて、感じた 戦争のこと】

ピースあいちでは、戦争の恐ろしさや経緯、そして戦時中の暮らしや様子などをパネルやガイドさんの解説を通じて詳しく知ることができました。私が一番心に残ったところは「命の壁」という展示場です。そこには、戦場での兵士の死、東京大空襲での多くの人の死など、悲惨な現状が鮮明に記録されています。私はそれらを見て、戦争という行いに対して強い憤りを感じました。たくさんの尊い命が消えるだけの行為を繰り返すことに、意味はあるのかと。しかし、起こってしまったことはもうどうにもできません。だからこそ私は命の壁に記してあった、「どうか目をそらさないください」という言葉が強く印象に残りました。



【世界のために働く人々】

私は JICA 中部で、世界のつながりや SDGs についてなど、世界中で起きている現実についてたくさん学ぶことができました。特に青年海外協力隊として海外で活動された方の話はとても興味深いものでした。

その中で一番心に残ったことは、コミュニケーションの大切さです。「派遣先の国で何かを変えるためには、その国の人々と仲良くなるのが第一の条件である」と話してくれました。このことを聞いて、私は改めて「人と人をつなぐのはコミュニケーション」だと実感しました。私たちに体験談を話してくれた方々は、私の目にとっても輝いて映りました。

【広島研修を振り返って】

私は今回の広島研修で、戦争の恐ろしさ、世界とのつながりの大切さを改めて知ることができました。ピースあいちや被爆体験伝承者講話などでは実際に体験した人でないと分からない、とても貴重な話を聞くことができました。そして、これから大切なことは、現実を知るだけでなく、後世へ受け継いでいくことではないかと思いました。JICA 中部では、海外で活躍された青年海外協力隊の方の話を聞いて、困っている人や国のために、自分にできることを実際に行動に移すことは、とても格好よく、誇らしいことだと感じました。

今回の広島研修で学んだこと、感じたことをこれからの自分の人生に生かすことができるよう、これからの学習につなげていきたいと思いました。

平和パネル展・弥富市中学校平和学習展示会

戦争の悲惨さを伝え、平和を祈念するために、平和パネル展・弥富市中学校平和学習展示会を開催します。

平和パネル展では、原爆による悲惨な状況を被爆者自らが描いた絵(複製)などを展示します。

また、弥富市中学校平和学習展示会では、市内の中学生が平和学習で学んだことをまとめた作品を展示します。

▼とき 8月2日(月)～16日(月)※土・日曜日、祝日を除く

▼ところ 市役所1階



☎ 市役所学校教育課 (内線 414)